

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

## 材料の力学1 Step3 第11回演習問題 (2017/7/10 実施)

- [1] 図1に示すように長さ $3L$ の両持ちはりに一様な分布荷重 $p$ (AB間)が作用している。また、はりの断面は図2に示す形状となっている。この時、以下の問い合わせよ。

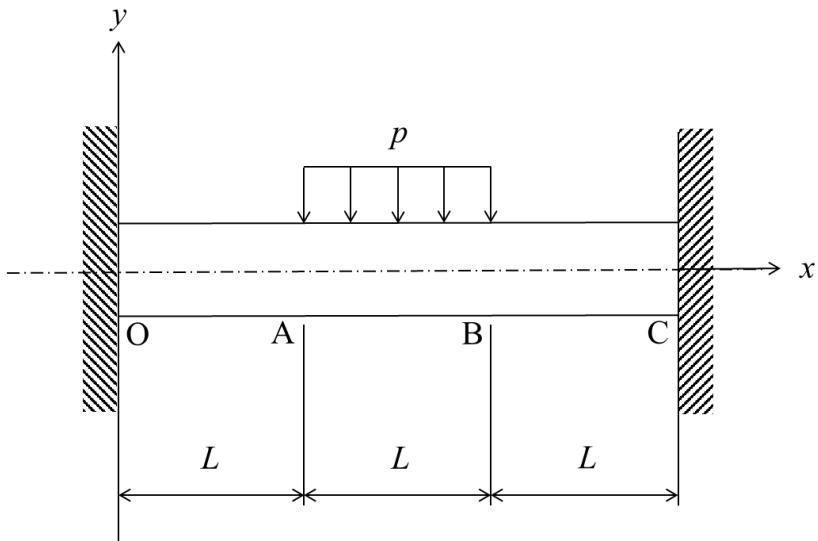


Fig.1 両持ちはり

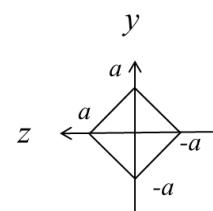


Fig.2 断面図

- (1) はりの $z$ 軸に関する断面2次モーメントを求めよ。以下の問い合わせでは曲げ剛性を $EI$ として答えよ。
- (2) 壁からの反力、反モーメントをそれぞれ $R_O$ 、 $R_C$ および $M_O$ 、 $M_C$ として、はり全体のFBDを描け。また、力のつりあいより $R_O$ 、 $R_C$ をそれぞれ求めよ。
- (3) はり全体の曲げモーメント $M(x)$ について $M_O$ を用いて特異関数表示せよ。ただし対称性を用いてもよい。
- (4) 対称性を考慮して反モーメント $M_O$ 、 $M_C$ を求めよ。
- (5) はりに最大たわみが生じる位置を示し、最大たわみを求めよ。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

[1]

- (1) はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメントを求めよ. 以下の問い合わせでは曲げ剛性を  $EI$  として答えよ.

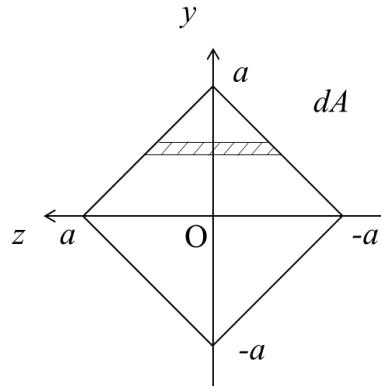


Fig. 1.1 円形断面の断面 2 次モーメントの計算

上図における微小面積  $dA$  は

$$dA = 2(a - y)dy \quad (1.1)$$

よって、断面二次モーメント  $I_z$  は

$$\begin{aligned} I_z &= \int_A y^2 dA \\ &= 2 \int_0^a 2(a - y)y^2 dy \\ &= 4 \cdot \left( \frac{1}{3}a^4 - \frac{1}{4}a^4 \right) \\ &= \frac{1}{3}a^4 \end{aligned} \quad (1.2)$$

と求まる.

- (2) 壁からの反力、反モーメントをそれぞれ  $R_O$ ,  $R_C$  および  $M_O$ ,  $M_C$  として、はり全体の FBD を描け. また、力のつりあいより  $R_O$ ,  $R_C$  をそれぞれ求めよ.

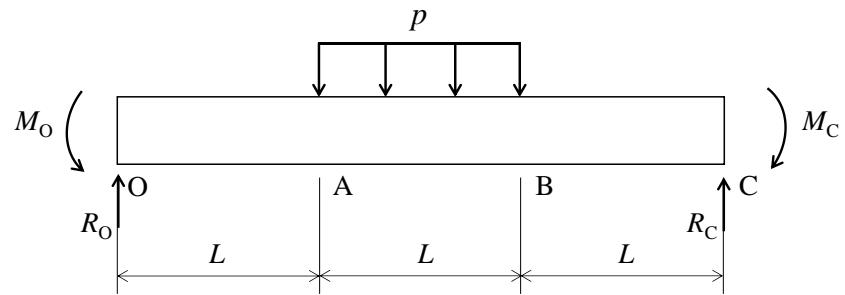


Fig. 1.2 FBD.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

はり全体の力のつり合いより,

$$\begin{aligned} -pL + R_O + R_C &= 0 \\ \therefore R_O + R_C &= pL \end{aligned} \quad (1.3)$$

対称性より, 壁からの反力, 反モーメントをそれぞれ  $R_O, R_C$  は

$$R_O = R_C = \frac{1}{2}pL \quad (1.4)$$

となる.

(3) はり全体の曲げモーメント  $M(x)$ について  $M_O$  を用いて特異関数表示せよ. ただし対称性を用いててもよい.

対称性を考慮して  $0 \leq x < L$  の範囲で図 1.3 を用いて考える.

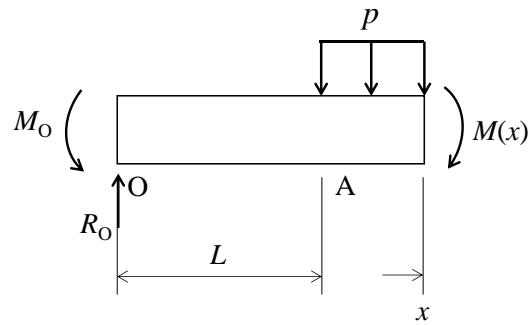


Fig. 1.3 FBD.

曲げモーメント  $M(x)$ について特異関数表示する.

$$M(x) = M_O \langle x \rangle^0 - \frac{pL}{2} \langle x \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x - L \rangle^2 \quad (1.5)$$

~別解~

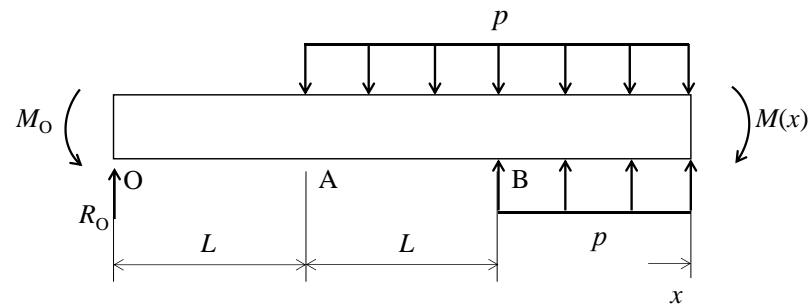


Fig. 1.4 FBD.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

はり全体の曲げモーメント  $M(x)$ について特異関数表示する。この時、 $L \leq x \leq 2L$  に作用する分布荷重を特異関数表示するため、図 1.4 に示したように、 $2L \leq x \leq 3L$  に上下に分布荷重が作用していると見なす。

$$M(x) = M_0 \langle x \rangle^0 - \frac{pL}{2} \langle x \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x-L \rangle^2 - \frac{p}{2} \langle x-2L \rangle^2 \quad (\text{A.1})$$

#### (4) 対称性を考慮して反モーメント $M_0, M_C$ を求めよ。

はりのたわみの基礎式を用いて

$$-EIv''(x) = M(x) \quad (1.6)$$

上式に式(1.5)を代入して

$$-EIv''(x) = M_0 \langle x \rangle^0 - \frac{pL}{2} \langle x \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x-L \rangle^2 \quad (1.7)$$

上式の両辺を積分することで

$$-EIv'(x) = M_0 \langle x \rangle^1 - \frac{pL}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x-L \rangle^3 + C_1 \quad (1.8)$$

$$-EIv(x) = \frac{1}{2} M_0 \langle x \rangle^2 - \frac{pL}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x-L \rangle^4 + C_1 x + C_2 \quad (1.9)$$

ここで、境界条件より  $v(0) = v'(0) = 0$  なので  $C_1 = C_2 = 0$  となる。

よって、たわみ角  $v'(x)$ 、たわみ  $v(x)$  の式は

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left( M_0 \langle x \rangle^1 - \frac{pL}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x-L \rangle^3 \right) \quad (1.10)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{2} M_0 \langle x \rangle^2 - \frac{pL}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x-L \rangle^4 \right) \quad (1.11)$$

と表せる。

また、対称性を考慮して式(1.11)より

$$\begin{aligned} v'\left(\frac{3}{2}L\right) &= 0 \\ -\frac{1}{EI} \left\{ M_0 \cdot \frac{3}{2}L - \frac{pL}{4} \cdot \left(\frac{3}{2}L\right)^2 + \frac{p}{6} \cdot \left(\frac{1}{2}L\right)^3 \right\} &= 0 \\ \therefore M_0 &= \frac{13}{36} pL^2 (= M_C) \end{aligned} \quad (1.12)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

~別解~

はりのたわみの基礎式に式(A.1)を代入すると次のようになる.

$$-EIv''(x) = M_O \langle x \rangle^0 - \frac{pL}{2} \langle x \rangle^1 + \frac{p}{2} \langle x-L \rangle^2 - \frac{p}{2} \langle x-2L \rangle^2 \quad (\text{A.2})$$

上式の両辺を積分することで

$$-EIv'(x) = M_O \langle x \rangle^1 - \frac{pL}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x-L \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x-2L \rangle^3 + C_1 \quad (\text{A.3})$$

$$-EIv(x) = \frac{1}{2} M_O \langle x \rangle^2 - \frac{pL}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x-L \rangle^4 - \frac{p}{24} \langle x-2L \rangle^4 + C_1 x + C_2 \quad (\text{A.4})$$

ここで、境界条件より  $v(0)=v'(0)=0$  なので  $C_1=C_2=0$  となる.

よって、たわみ角  $v'(x)$ 、たわみ  $v(x)$  の式は

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left( M_O \langle x \rangle^1 - \frac{pL}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{p}{6} \langle x-L \rangle^3 - \frac{p}{6} \langle x-2L \rangle^3 \right) \quad (\text{A.5})$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{1}{2} M_O \langle x \rangle^2 - \frac{pL}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x-L \rangle^4 - \frac{p}{6} \langle x-2L \rangle^3 \right) \quad (\text{A.6})$$

と表せる.

(5) はりに最大たわみが生じる位置を示し、最大たわみを求めよ.

式(1.11)および式(1.12)より

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{13}{72} \langle x \rangle^2 - \frac{pL}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{p}{24} \langle x-L \rangle^4 - \frac{p}{6} \langle x-2L \rangle^3 \right) \quad (1.13)$$

が成立する. 最大たわみは  $x=\frac{3}{2}L$  において生じるため、式(1.13)より

$$\begin{aligned} v_{\max} &= v\left(\frac{3}{2}L\right) \\ &= -\frac{1}{EI} \left\{ \frac{1}{2} M_O \left(\frac{3}{2}L\right)^2 - \frac{pL}{12} \left(\frac{3}{2}L\right)^3 + \frac{p}{24} \left(\frac{1}{2}L\right)^4 \right\} \\ &= -\frac{49}{384} \frac{pL^4}{EI} \end{aligned} \quad (1.14)$$

となる.

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

- [2] 図 3 に示すように、単純支持された長さ  $2L$  のはりが A 点で集中荷重  $P$  を受けており BC 間に分布荷重  $q$  が作用している。このとき以下の問いに答えよ。ただし、はりの曲げ剛性は  $EI$  とする。

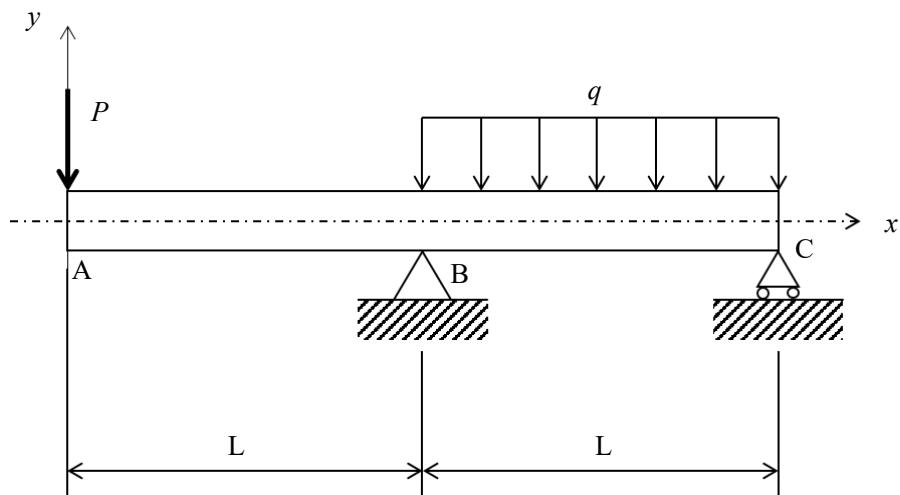


Fig. 3 単純支持されたはり

- (1) はり全体の FBD を描き B 点の反力  $R_B$ , C 点の反力  $R_C$  をそれぞれ求めよ。
- (2) AC 間に生じる曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示せよ。
- (3) A 点に生じるたわみ  $v_A$ を  $P$ ,  $q$  を用いて表せ。
- (4) A 点に生じるたわみが 0 となる時の集中荷重  $P$  と分布荷重  $q$  の関係を求めよ。

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

[2]

(1) はり全体の FBD を描き B 点の反力  $R_B$ , C 点の反力  $R_C$  をそれぞれ求めよ.

はり全体の FBD を描くと以下のようになる.

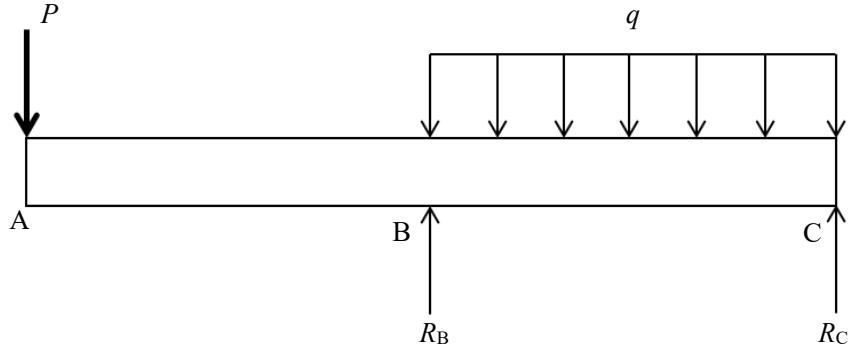


Fig. 2.1 FBD.

はり全体の力のつり合いより,

$$R_B + R_C - P - qL = 0 \quad (2.1)$$

また, C 点まわりのモーメントのつり合いより,

$$-\frac{1}{2}qL^2 - 2PL + R_B L = 0 \quad (2.2)$$

よって

$$R_B = 2P + \frac{1}{2}qL \quad (2.3)$$

また, 式(2.1)より

$$R_C = -P + \frac{1}{2}qL \quad (2.4)$$

(2) AC 間に生じる曲げモーメント  $M(x)$ を特異関数表示せよ.

$M(x)$ を特異関数表示すると

$$M(x) = P\langle x \rangle^1 - \left( 2P + \frac{qL}{2} \right) \langle x - L \rangle^1 + \frac{q}{2} \langle x - L \rangle^2 \quad (2.5)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

(3) A 点に生じるたわみ  $v_A$  を  $P, q$  を用いて表せ.

はりとたわみの基礎式より

$$-EIv'' = M(x) \quad (2.6)$$

(2)の結果より

$$-EIv'' = P\langle x \rangle^1 - \left(2P + \frac{qL}{2}\right)\langle x-L \rangle^1 + \frac{q}{2}\langle x-L \rangle^2 \quad (2.7)$$

式(2.7)の式を両辺積分して

$$-EIv' = \frac{P}{2}\langle x \rangle^2 - \frac{1}{2}\left(2P + \frac{qL}{2}\right)\langle x-L \rangle^2 + \frac{q}{6}\langle x-L \rangle^3 + C_1 \quad (2.8)$$

$$-EIv = \frac{P}{6}\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}\left(2P + \frac{qL}{2}\right)\langle x-L \rangle^3 + \frac{q}{24}\langle x-L \rangle^4 + C_1x + C_2 \quad (2.9)$$

ただし、  $C_1, C_2$  は積分定数である.

ここで、境界条件考える.

$$v(L) = 0 \quad (2.10)$$

$$v(2L) = 0 \quad (2.11)$$

よって式(2.8), 式(2.9)より

$$\frac{P}{6}L^3 + C_1L + C_2 = 0 \quad (2.12)$$

また式(2.8), 式(2.10)より

$$\frac{4}{3}PL^3 - \left(\frac{P}{3} + \frac{1}{12}qL\right)L^3 + \frac{q}{24}L^4 + 2C_1L + C_2 = 0 \quad (2.13)$$

$$PL^3 - \frac{q}{24}L^4 + 2C_1L + C_2 = 0 \quad (2.14)$$

式(2.11), 式(2.12)より

$$C_1 = -\frac{5}{6}PL^2 + \frac{1}{24}qL^3 \quad (2.15)$$

式(2.11), 式(2.13)より

$$C_2 = \frac{2}{3}PL^3 - \frac{1}{24}qL^4 \quad (2.16)$$

よってたわみの式は

$$v = -\frac{1}{EI}\left(\frac{P}{6}\langle x \rangle^3 - \frac{1}{6}\left(2P + \frac{qL}{2}\right)\langle x-L \rangle^3 + \frac{q}{24}\langle x-L \rangle^4 + \left(-\frac{5}{6}PL^2 + \frac{1}{24}qL^3\right)x + \frac{2}{3}PL^3 - \frac{1}{24}qL^4\right) \quad (2.17)$$

A 点でのたわみ  $v_A$  は式(2.17)に  $x=0$  を代入すればよいので

$$v_A = -\frac{1}{EI}\left(\frac{2}{3}PL^3 - \frac{1}{24}qL^4\right) \quad (2.18)$$

※解答の導出過程がないレポートは認めない.  
採点済みのレポートは次回演習時に返却.

(4) A 点に生じるたわみが 0 となる時の集中荷重  $P$  と分布荷重  $q$  の関係を求めよ.

(3)より

$$v_A = \frac{2}{3}PL^3 - \frac{1}{24}qL^4 \quad (2.19)$$

$v_A = 0$  のとき,

$$\frac{2}{3}PL^3 - \frac{1}{24}qL^4 = 0 \quad (2.20)$$

よって集中荷重  $P$  と分布荷重  $q$  の関係は,

$$P = \frac{1}{16}qL \quad (2.21)$$